

偲ぶ

「偲ぶ」というところは、人間だけにそなわった尊いところだと思います。

ある日、九十歳になるおばあさんの訃報の電話がありました。直葬にして既に日時も決めているとのことでした。これまでの人生で出遇った身近な人々と「偲ぶ」という「時」も「場」も持つことの無いのちのお別れがなされています。

また、ある日、おばさんが介護老人保健施設に入居され、永年住みなれた我家に帰れなくなり、お仏壇の仏さまに朝夕のお参りが出来なくなったので、居室に仏さまをお迎えしたいとの相談がありました。ご主人が亡くなられて三十七年の月日が過ぎ、一人暮らして毎回ご主人を「偲ぶ」日々を過ごしておられました。百歳を超えてお元気でしたが、骨折を期に施設に入居されたのでした。施設の了解を得て阿弥陀仏の御本尊をお掛けし、居室にて朝夕のお参りができるようにになりました。

「偲ぶ」というところを通して「さずかったいのち」をよろこび「生かされて生きていくのち」に感謝する尊いところを大切にしたいものです。

